



吉本興業による寄附講座を開講 「笑いの総合科学」の可能性を学際的に展望



関西大学は今年度秋学期に、吉本興業株式会社提供の寄附講座「笑いの総合科学をめざして」を開講している。1912年創業の同社は現在、大証1部、東証1部に上場。今回の寄附講座は、関西大学の総合的な「笑い学」研究の発展を支援し、大阪ひいては日本文明における笑いの文化的意義の解明に資することを目的としている。

笑いを21世紀人間科学のフロンティアとしてとらえ、笑いの謎を解明するために、文学、哲学、心理学、社会学その他の伝統的な学問分野における笑い研究に加えて、医学、脳神経科学、情報科学といった先端分野の研究を連結しながら「笑いの総合科学」の可能性を学際的に展望する。

講座はインターファカルティ教育科目テーマスタディとして開講され、社会学部の木村洋二教授が担当し、コーディネーターを務めている。

講義は9月21日から2008年1月11日まで、金曜日4限目にBIGホール100で開講中。最終日には、関屋俊彦文学部教授が狂言「福の神」を演じる予定である。計13回の講師(ゲストスピーカー)は次の通り。

井上宏(本学名誉教授)、木村洋二(社会学部教授)、関屋俊彦(文学部教授)、森下伸也(金城学院大学人間科学部教授)、竹内洋(文学部教授)、木俣肇(守口敬任会病院アレルギー科部長)、雨宮俊彦(社会学部教授)、森田亜矢子(産業能率大学・自由が丘産能短期大学兼任講師)・広崎真弓(京都大学大学院)、野澤孝司(目白大学人間学部非常勤講師)、竹本浩三(帝京大学教授・吉本興業芸芸顧問)、藤田曜(漫才コント作家)、吉野伊佐男(吉本興業社長)、その他。

文部科学省の支援プログラムに5件が採択 関西大学の教育力・研究力の高さを示す

文部科学省は、全国の大学などの教育・研究を支援するために各種のプログラムを設置し、申請案件を厳正に審査した上で予算を配分している。平成19年度はグローバルCOEをはじめ、関西大学が申請した5件のプログラムが採択された。これは本学の教育力・研究力が高く評価された結果といえる。採択プログラムは次の通り。

◇グローバルCOEプログラム「東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成—周縁アプローチによる新たな東アジア文化像の創出—」

◇大学院教育改革支援プログラム「関西大学E U—日本学教育研究プログラム」

◇現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)「農山村集落との交流型定住による故郷づくり—持続的に“関わり続ける”という定住のカタチ”による21世紀のふるさとづくり—」(p13~p14参照)

◇新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)「広がれ!学生自立型ピア・コミュニティ—関西大学で育む21世紀型学生気質—」(p12参照)

◇専門職大学院等教育推進プログラム「映像教材を活用した総合的法実務教育の実施」(p11参照)

『関西大学百二十年史』が完成

関西大学創立120周年を記念する『関西大学百二十年史』が刊行された。「歴史編」と「現代編」の2部構成で、「歴史編」は創立期から100周年までを要約して叙述し、「現代編」は最近20年間の関西大学の足跡を、主題別に各部署の教職員が執筆した。従来の通史と異なり、ほぼ全ページにわたって写真を配することで読みやすくなっている。巻末の「資料編」には統計データと略年譜を収録し、昨年発見された「関西法律学校規則」全文を掲載している。

A4変型判、オールカラー、410ページ、上製本。頒布価格1冊7,000円(税込)。ご希望の方は年史編集室(06-6368-1062)にお問い合わせください。

